

# のんた

4

山口の土地改良

vol.4

Spring 2002

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう!

●巻頭特集

山口県地球人会議ニユース

## 都市と農村の交流

入選作品のご紹介

第3回食料・環境・ふるさと

## 写真コンテスト

ため池の保全と活用 21世紀のため池賛歌

2001

## ため池サミット

in やまぐち

## ふるさと紀行

やまぐち あら・かると まつり編

大島で田舎暮らし体験

## ガルテンヴィラ大島



食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議



# 食料・環境・ふるさとを考える 山口県地球人会議

## 都市と農村の交流

「食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議」では、平成13年度の運営委員会において、これまでの活動を統合・再編して「あぜ道せせらぎ部会」「田園空間推進部会」「ふるさと保全部会」の3部会を新たにもうけ、運営委員が県下の現地へおもむいて活動を行うこととなりました。平成13年度の目標は「都市と農村の交流」。この目標にもとづいて、各部会がおこなった事業と検証内容をご紹介します。



## あぜ道せせらぎ部会

(たんぼの学校など食と農をめぐる教育)

### こんな 目的があります

農業・農村の多面的機能を通じて「環境」に対する豊かな感性と見識を養っていきこうと、さまざまな取り組みが今、芽生え始めています。こうした取り組みを今後、県下全域へ広めるにはどうあるべきかを検討します。

### こんな 事業を行いました

田んぼや水路などを遊びと学びの場として活用する環境教育「田んぼの学校」が今、全国各地で行われています。小郡町でも平成13年6月から12月まで全11回、田んぼの学校を開催。あぜ道せせらぎ部会では、その田植えイベントに参加し、農業・農村の多面的機能の活用方を検討すると共に、参加者にアンケートを実施しました。



田植えイベントに参加

### こんなことが わかりました

田んぼの学校では、子どもたちや都市住民が、自然とふれあい、農作業を体験することを通じて、農産物をつくる苦勞や収穫の喜びを体験しています。米づくりを最初から最後まで体験したり、メダカやドジョウなどに触れたりすることで、子どもたちは農業の大切さや命の尊さを感じとっているようです。しかし、田んぼの学校は、地元農家やボランティアの人々の協力や意気込みがないと実現できません。また、今後も活動を広めていくには経費がかかるといったさまざまな課題があります。



収穫の喜びを体験

### 子どもたちへのアンケートから

**Q** 米を作るには、田植え・草刈り・水の管理・雑草取り・カカシ作り・稲刈りなどをします。また、田んぼにはたくさんさんの生き物が住みます。これからも、田んぼで雑草取り・カカシ作り・稲刈り・生き物の観察をしてみたいですか？

**A** してみたい(22人)  
したくない(0人)  
どちらともいえない(4人)

アメンボ、カエル、カニ、クモ……。田んぼにはいろんな生き物がいるんだね!



### 大人たちへのアンケートから

**Q**

参加されて、お子さまの反応はいかがですか？

**A**

自然への興味・関心の醸成がうかがえた(20人)  
作物などを育てる気運が醸成された(7人)  
農業の重要性を理解できた(1人)  
生命の大切さが実感でき、思いやりが育った(5人)  
効果不明(行けば楽しそう。行く前は大儀!と言っているが)(5人)  
その他(とにかく楽しんでいる、など)(3人)





山口市の榎野川最上流域における仁保地域の住民活動についてのフィールドワークを7月に実施しました。

## こんな事業を行いました

中山間地域を主体とする農地や土地改良施設の保全・利活用にかかわる地域住民などによる共同活動の活性化を通じて、これらの公益的機能を良好に発揮するにはどうすればいいか、安全な食料を確保していくにはどうあるべきかを検討します。

## こんな目的があります

# ふるさと保全部会

(中山間ふるさと保全懇話会)

## こんなことがわかりました

仁保地域では、ほ場整備や農業集落排水事業により、地域の一体的な整備が行われています。整備された水路や堰、ため池などの土地改良施設の公益的機能を発揮させ、安全な食料を生産するには、地域の豊かな自然や環境を保全していかなければなりません。

しかし、近年の経済活動の拡大、農業・農村を取り巻く環境の厳しさ、減反政策と高齢化の進展により、良好な自然は急速に失われつつあります。このため仁保地域では地域住民の人たちを中心にして「榎野川の源流を守る会」を結成。源流付近一帯を保全するための用地の購入を目的とした募金活動を行い、目標を達成されました。自然は先祖から受け継いだ貴重な財産であるとして、これを守り、さらにより良くして後世に引き継ぐことを目的に活動しています。

# 田園空間推進部会

(農村景観研究会)

## こんな目的があります

農村を単に生産を支える生活の場としてとらえるのではなく、自然と人間が織りなしてきた歴史・文化があふれる「ふるさと」としてとらえ、農村振興に向けた田園空間として創造するには、どうあるべきかを検討します。

## こんなことがわかりました

福栄村では、新規就農者の受け入れ体制が整備されています。特に「平蔵台活性化交流施設夢ルーラル雲海」では、都市住民との交流をいかに多様な農業経営の展開、農産物加工、共販体制の確立など、農業者自らが新分野へ取り組むための施設として、また地域住民や農業農村活性化塾などにも利用されています。

福栄村で11月4日に行われた秋祭りに参加し、福栄村の地域資源について現地調査を行うと共に、新規就農者と意見交換を行いました。

## こんな事業を行いました

福栄村には豊かな農産物や心を癒してくれる四季折々の景観、特色ある歴史・文化財などの地域資源も多く、これらの有効な利活用により、都市と農村との交流と地域の活性化が、一層促進されることが期待されます。



犬鳴公園  
仁保では、カジカやヤマメが住み、子どもたちが泳げる川を守るとう河川美化活動が行われており、犬鳴の滝近くの公園には河川プールもつくられています



仁保上・中郷地区集落排水処理場  
河川の水質を守るため、山口市で一番早く農業集落排水事業に取り組みました。



道の駅 仁保の郷  
都市と農村の交流、地域の情報発信の場。仁保のとれたて新鮮な野菜や特産品などを販売しています。



キリシタン祈念地  
江戸時代の隠れキリシタンの墓



夢ルーラル雲海



道の駅ハビネスふくえ  
野菜をそのまま炭にした「お炭つき」や鶏肉のオープンソース「昔福鶏」など今評判の地元特産品がいっぱい！

### 「榎野川の源流を守る会」ではこんな活動をしています

- 1 源流付近一帯を保全するための必要用地の購入を目的とした募金活動
- 2 水源の重要性に関する広報活動
- 3 環境保全に配慮した農林業の振興
- 4 その他目的達成に必要な活動



仁保川源流  
仁保揚山峠にある源流風景



福栄ふるさと2001  
平成13年11月4日に行われました。



押原の棚田  
美しい景観が広がる棚田地帯





「代掻き」 油谷町後畑 宮迫研司(小野田市)

この光景を目前にして何と美しく素晴らしいと思ひ、とっさに機材を取りだし撮影した1枚。(表紙の写真)



「待機」 豊北町栗野川 山根秀雄(山口市)

清流に育つ川のりの収穫状況を見たかった。



「春の訪れ」 豊田町 住田幸宏(山口市)

今年も野焼きが始まった。この風景を見ると春を感じる。枯れ草を処理して農家は田植作業の準備をしていく。



「秋分の田園」 楠町奥万倉 広田和夫(宇部市)

曼珠沙華の鮮やかな紅と秋空の青と稲穂の色彩のコントラストを撮りました。

## 佳作



「田植の季節」 阿東町徳佐 佐伯静枝(小郡町)

今年もよい収穫である様にと一生懸命働いていらっしゃる好景を撮らせていただいた。



「春を待つ田園」 阿東町徳佐 吉田健次(山口市)

雪もどけ始めた田んぼ。赤いトラクターは出番を待っています。



「朝霧の海」 油谷町掛瀬港 西島昭夫(豊北町)

午前7時すぎ、朝霧の立ち込める中、ロープで繋がれた2隻の網引き船が掛瀬港より出港します。



「みかん だいたいすき ふたりっこ」 下関市吉見 菖木清美(宇部市)

みかんのおいしさに思わず笑顔がこぼれています。



「土の匂」 徳山市 山本由里子(徳山市)

都会育ちの子どもにこの田舎の風景を一度見せてやりたい。毎年一家一家なくなっていく。



「ドロコ遊び」 下関市富任町 谷山 昇(下関市)

休耕田を利用してドロコ遊びをしようと聞き、かけつけた時の1枚。大人も子どもも我を忘れて遊んでいた。



「葉積み終えて」 油谷町後畑 中野英治(下関市)

ご夫婦共同作業の葉積み工程を見せていただいた。最後に作業終了でご満悦の笑顔をプレゼントしていただいた。

## 最優秀賞

「魂送り(たまおくり)」 長門市通 三浦玲子(萩市)

しん祭りでしん供養の唄をうたっているところです。皆、一生懸命うたっていました。



やまぐちの農山漁村景観を活かした  
地域づくりコンクール  
食料・環境「水・土・人・暮らし」  
ふるさと写真コンテスト  
山口県内の農山漁村の良さを再発見していただく「水・土・人・暮らし」をテーマに、平成13年7月から12月にかけて「食料・環境・ふるさと写真コンテスト」を開催しました。応募総数387点。県内各地から寄せられた農山漁村の風景や人々の暮らし、伝統文化などを撮った数々の作品のうち、入賞作品20点を誌上でご紹介いたします。

一般の部

## 優秀賞

「楽しい田植え」 豊田町 河野サエ子(下関市)

豊田小学校の1年生が初めての田植えで泥んこになりながら楽しんで経験している様子を撮りました。



「大地の恵み」 美東町赤郷 山本弘樹(大津郡三隅町)

霜の朝、大地から立昇る霧を背に老夫婦の牛蒡畑の姿が大自然の営みの中で素晴らしい輝いていた。(裏表紙の写真)



## 入選



「収穫」 山口市名田島 安武 努(宇部市)

西日を受けて美しい玉ねぎの収穫風景。でも玉ねぎの収穫は大変な作業だと思った。



「ハサミを入れる」 秋芳町青景 桶田敏治(宇部市)

梨園の摘果作業を見せて頂いたのを機に撮影。あちこちに散り、丁寧にハサミを入れておられました。



「地藏様に見守る田植え」 油谷町上野 藤永知巳(大津郡油谷町)

地藏様に見守られ、棚田で手植えをされる早女(そうとめ)の様子。苦労がしのばれる。



食料・環境「水・土・人・くらし」  
ふるさと写真コンテスト

児童・生徒の部

最優秀賞



「父さんは大変」 田布施町大波野  
西本侑矢(田布施町・小学4年)  
乗っている子どもはらくちん。押しているお父さんは重くて大変です。

優秀賞



「柿の木と田んぼ」  
小林孝明(下松市・中学2年)  
新芽の柿の木が田んぼに写っていましたのでとりました。



「お米作り」 錦町広瀬  
藤原 希(玖珂郡錦町・小学4年)  
私たちが毎日食べている大切なお米を一生けん命作っている姿を見て写しました。

主催/ やまぐちの農山漁村景観を活かした地域づくりコンクール実行委員会  
(山口県、山口県土地改良事業団体連合会、食料・環境・ふるさとを考える山口県地球人会議)  
後援/ 中国新聞、山口新聞  
協賛/ 富士写真フィルム株式会社

池のほとりの散歩道

星野の郎

すみれ たんぽぽ れんげそう  
ききょう かるかや まんじゅしやげ  
幼ころに しみついた  
めぐる季節の 花の名を  
指に折りつ ふるさと思つ  
池のほとりの 散歩道

昔 棚田の 上手には  
きつとあつたね ため池が  
暮れる山間 手をつなぎ  
木橋渡つた 堂狩り  
遠く別れた 旧友の名浮かぶ  
池のほとりの 散歩道

めだかすくいや 小鮒り  
泥にはまつて しじみとり  
幼ころに やきついた  
めぐる季節の よろこびを  
空に描きつ ふるさと思つ  
池のほとりの 散歩道

2001ため池サミット in やまぐち  
panel discussion  
パネルディスカッション  
ため池の保全と活用

「池のほとりの散歩道」CD制作  
全国からの参加を得て開かれた「2001ため池サミットinやまぐち」を記念して、ため池保全を歌に託してアビールしよう、郷土、山口県出身の作詞家、星野哲郎先生に作詞を依頼し、大会当日発表されたのが「池のほとりの散歩道」です。このたび、その「池のほとりの散歩道」をCDにしました。このCDを通じて、児童や広く一般の人々が、ため池をかけたがえのないものとして守っていくという気持ちになることを願っています。

「2001ため池サミットinやまぐち」が平成13年9月、宇部市と山口きらら博会場で行われました。ため池は全国的に江戸時代に築造されたものが多く、農業人口が減る中で、ため池を今後どう保全・活用していくかが大きな課題になっています。基調講演やシンポジウム、タレントの田中義剛氏の講演など、当日の多彩なプログラムの中から、ため池サミットの一部をご紹介します。

ため池保全のためには、  
国民全体のものとして  
もっと活用されていいのでは

- 加倉井 ため池の保全と活用には、どうすればよいのでしょうか。
- 小山 飯山市にはため池が大小約65個あり、ほとんどが江戸時代の築造です。飯山のため池の特徴は雪との関わりで、水路が木の葉などで詰まると水害が起きます。そこで2月終りから毎日村の方が見回り、その印に札を刺していく風習が今も受け継がれています。今、学校の農業体験やカヌー遊びなどの観光事業にも、ため池を活用しています。ため池が色々役立っていること、それを守るため地域の皆さんが苦労していることもぜひ知って頂きたいと思えます。
- 加倉井 ため池は今や国民全体の物として使われてもいいのでは？ そうでない国民の金を使って保全することになり、いいのではと思えますが？
- 宇根 学校でビオトープ作りが流行して

います。本来は田んぼやため池の方が生物は豊かなはずですが、今は生物が生物らしく生きられる場所ではない。田んぼやため池の生物を自然の恵みとして育てる技術が必要で。

ため池には農業だけでなく  
様々な多面的機能がある

- 久元 平成6年の大洪水で、私たちは昔からの仕組みを復活させて節水灌漑を行い、残ったため池の用水を上水道へ救済水として市民を救済しました。また、毎年6月13日には満濃池で「ユル抜き」が行われ、一斉に田植えが始まります。この日、水事関係者が集まって讃岐うどんをふるまいますが酒を酌み交わし、こうした人と人とのつながりがコミュニティを形成しているのです。このようなため池文化を、多くの方々に知っていただきたいと思えます。
- 江島 ため池の維持は、農業のためだけではないこと。その風景や生物の多様性による利益を甘受するのは国民で、だからそのための税金投入をさせて頂きたいと訴えていきたいと思えます。
- 西沢 私たち一般国民はため池の多面的機能といってもなかなか分かりません。ため池とはどんな場所か、まず遊ぶなどして実感しないと議論に入れないのでは。ため池では虫がわかないように水を冬に抜いて春に水を溜めるそうですね。和歌山県古座川町では「池にこし」というイベントをやっている、平成11年には700人も観光客が鯉や鮒を捕まえて訪れました。



## ため池には 例えばこんな 多面的・公益的機能が

### ① 干拓地の用水源

河川から十分に水を得られない地域では、農業用水の多くをため池に依存しています。

### ② 水辺生物の生息地

山口県の標準的なため池の場合、深層部にはドンコ、ドジョウ、中層部にはハヤ、フナ、表層部にはメダカ、ヤゴ、タニシなどが生息していると考えられます。

### ③ 憩いの場・交流の場

観光事業に活用されるなど、市民に広く親しみ愛されているため池も近年、増えています。

■久元 国営讃岐渡瀬公園には年間15〜20万人、ユル抜きの日には5千人以上が訪れます。人は水を見れば落ち着くのか、自然空間を求めて多くの方が来られます。事故は特別ありませんが、親しめる環境作り、水質浄化や環境に配慮した整備を今後も行政にお願いしたいし、我々も守っていききたい。

## まず、きちんとした調査と ルールづくりから

■宇根 ため池のどこが危険かは、地元で手入れている人なら分かるはず。今は後にはため池を、教育の場や都会の人の自然体験の場に使おうという目で見直して新しいルールを作ることが必要だと思います。ただ、ため池整備の際、周辺全部に遊歩道を作るのは、まずい。森林と水が直結している部分がないと、生き物は行き来できない。そうしたところを必ず一部分残す必要があります。

## ため池や水路は集落機能が 維持できないと守れない

■宮村 ため池を失ってから今になって「しまった」と思っている地域もあるんです。ため池でコントロールしていた部分もできなくなるからです。洪水防止にも、やり方によってはものすごく利く。ただ、そのままじゃダメ。今まで洪水対策は旧建設省がやっており、農水省の土地改良区ではそれができなかったからで、やろうと思えばできます。今はとにかく、ため池が失われなように、と思っています。



コーディネーター  
NPO法人「農と自然の研究所」  
代表理事 加倉井 弘さん  
「欧米先進国で今、環境保全型農業への転換と環境重視政策の採用が進んでいます。これは先進国における潮流の一つです。」

も補助金がでるようになりました。今後とも一層の整備を願いたいと思います。  
■加倉井 私の経験では、国民は農業というとなかなか耳を傾けないけれども、環境というと耳が大きくなるように思います。国民が農家以上に考えていることは、食料はお金で買える、外国から買える。でも、環境は買えない。国民を味方にするのかどうかは、皆さんが決めることだと思います。



パネリスト  
NPO法人「農と自然の研究所」  
代表理事 宇根 豊さん  
「は場整備にも乾田化で、灌漑でしか水を確保できない。ユル抜きが灌漑でも、またため池が残ればよいです。」



パネリスト  
長野県飯山市市長  
小山 邦武さん  
「唱歌ふるさとを豊饒が保全されれば、田舎にも通いやすくなりました。グリーンツーリズムのため池でのツアーが人気です。」



パネリスト  
渡瀬池土地改良区理事長  
久元 豊さん  
「渡瀬池は香川県で最大のため池で、貯水量540万トン、1300年前弘法大師が築いた日本のため池です。」



パネリスト  
下関市長  
江島 潔さん  
「貯水量約125万トン、深層のため池に隣接した森林を深層自然の森として整備。年間10万人が訪れています。」



パネリスト  
関東学院大学教授  
宮村 忠さん  
「日本で一番古い手なため池は、渡瀬池。水防団と土地改良区の人々が親子たがうまく連携できているんです。」



パネリスト  
地域振興ミニタレント  
西沢 依里子さん  
「田舎の父の故郷は、農村としても守っていかない状態。農村崩壊を食い止めるのは、日本全体の課題です。」



「常盤公園」(宇部市)  
貯水量348万トンの山口県最大のため池。  
1698年(元禄11年)に築造されました。

う人たちに「こういう生物がいるからブラックパスを放すのはやめてくれ」と説得できないと思います。

## 2011ため池サミット in やまぐち



ため池に暮らす、小さな命  
サミット期間中、展示された「ため池水族館」では池を水深別に〈深層部〉〈中層部〉〈表層部〉の3つにわけて、ため池の中の様子を水槽の中に再現しました。

### ◎基調講演

## 自然環境が 大事だと思うなら、 地元の食べ物を 食べるしかないんです

NPO法人「農と自然の研究所」  
代表理事  
宇根 豊さん

■数年前、奈良県の昆虫館の研究員によって、田植えが始まると、ため池から虫が飛び立って田んぼで卵を産み育てていることが発見されました。つまり、ため池と田んぼの間を生き物が行き来していることが分かったのです。でも、その価値が我々にはピンと来ない。そんなことでは、農業もため池も本当の価値は見えてきません。

農水省は水田の多面的機能を6兆円と試算。でも、それをだれもきちんと評価していないのはなぜか。  
多面的機能というけれど、実は今の農業はコストを下げるため、それを壊しているんじゃないか。また、水田には洪水防止・水源かん養・生物育成機能があるといつても、たまたま結果として生まれたものだから、百姓は胸を張ってそれが農業の価値だといえないのではないか。

福岡で大渇水の時、室見川流域の田んぼを全部休耕させて農業用水を生活用水として買上げたことがあります。すると、周辺住民から「田んぼを作ってもらわんと困る」と苦情が殺到しました。理由は涼しい風が吹かなくなったから。住民は涼しい

風が農業で支えられていることを知らなかった。でも、それはそういう農業の価値を、我々百姓が伝えてこなかったからなんです。では、どうすれば胸を張ってそれを農業の価値だといえるのか。そのためには多面的機能と言うのではなく、「百姓をしてどんな恵みを感じていますか」と聞けばいいのです。自然環境は自然現象ではなく、自分の仕事によって維持されているんだと実感があった時、人は胸を張って語れます。

田んぼがなくなれば、赤トンボもいなくなる。百姓仕事は結果的にすごく公的な仕事で、そこが本質的に他の仕事と違うところ。そのことを日本の農学は理論的に明らかにしてこなかった。それが日本の農業が落ち込んだ理由であり、きちんと評価されない最大の理由です。

ドイツのりんご農家から話を聞きました。「ジュースにして地元産のシールを貼って売っているが、地元で飛ぶように売れているんだ」と。その理由は「りんご園の美しい風景を守るには、このジュースを飲まないといけない」とまちなちが自覚しているから。自然環境が大事だと思えば、地元の食べ物を食べるしかないんです。  
ヨーロッパの評価できる点は、農業のやり方によっては自然は壊れることをしっかりと反省したこと。自然を守るには環境保全型農業に変えていく。そのためであれば税金もつぎ込んで農業を守るんだ、と。  
田んぼやため池によって自然の生き物や風景がどう支えられているのかを説明しようとする眼差しが、日本の農業を立て直す力になる。日本の自然環境は、ほとんど百姓が育てて守ってきた。それを本気で自分の言葉で語ることが、ため池関係者の一番の仕事だと思えます。





## お笑い講

Owarai Kou

防府市

**防** 府市台道小俣地区に伝わる奇祭、お笑い講は、収穫の感謝と来年の豊作を祈願する大歳祭で、鎌倉時代の正治元年(1199)、八幡宮が同地に勧請されたころ始まったといわれています。

お笑い講はもともと旧暦の12月1日に行われていましたが、現在は12月の第1日曜日、その年の頭屋(とうや)を務める家地域に21戸の農家が集まって、農業の神である大歳神を迎えて執り行われます。

まず直会の後、神官が「笑いの神事」を宣言。2人が対座して櫛を持ち、最初はその年の豊作を感謝して、2回目は来年の豊作を祈願して、3回目はその年の苦しみや悲しみを忘れるため大声で笑い合います。



柳井市

## 阿月神明祭

Azukishinmeisai

**春** を告げる勇壮な火祭り「阿月神明祭」。現在は毎年2月11日に行われているこの祭りは、もともと旧暦の小正月に行われていたもので、どんと焼きの行事と伊勢信仰、小早川家の軍神祭が合わさったものといわれています。

御神体は黒松・竹などを組み合わせてつくられ、その高さは約24メートルにも及びます。頂上には5色の吹き流しや御幣がとりつけられ、神の抛りどころにふさわしい堂々たる威風が印象的です。御神体は祭りの日の朝、ホラ貝を合図に浜に起こし立てられ、その後昼夜にわたって神明踊りが繰り広げられます。最後の踊りが終わると、御神体は四方から火を放たれて浜に引き倒されます。その倒れた御神体の飾り物や御幣を家に持ち帰り、灰を田畑にまくと、災厄除去になると伝えられています。



## 御

田植祭は、稲作の豊穰を祈る祭りとして昔から全国各地で行われてきました。県内では下関の住吉神社の御田植祭が、よく知られており、その起源は、神功皇后が住吉大神を祀られた際、米を毎日神前に供えるために苗を植えられたのが始まりといわれています。

御田植祭は以前は6月中旬に行われていましたが、農繁期と重なることから、現在は5月第3日曜日に行われています。

祭りはまず、本殿で神事を行った後、神社裏手にある竹矢来で開かれた神田へ移り、白衣に緋袴、菅笠姿の早乙女が神歌に合わせて畦道で舞った後、神田に入って田植えを行っていきます。同時に、神田の舞台でも弓鎮治舞、田植舞が奉納され、最後は拝殿に戻って直会(なわらい)となります。

## 御田植祭

Otauematsuri

下関市



## 赤

崎大祭の楽踊りは、慶長元年(1596)深川一帯に牛馬の悪疫が流行した際、悪疫退散・五穀豊穰の願いをこめて神社に奉納したことが始まりといわれています。

祭りが行われるのは9月10日。楽踊りは、太鼓踊り・念仏踊りの系譜をひく民俗芸能で、花の宝冠をかぶって太鼓を打ち鳴らしながら踊る胴取りや、大きな団扇を振りかざしながら踊る団扇使い、杖を振り回しながら踊る杖使いなど、総勢20数名によって行われます。こうした楽踊りのほかに、小唄踊りの系譜に連なる湯本南条踊りもこの日、神社に奉納されます。

また、楽踊りの観覧席となる「楽棧敷」は、すり鉢状の自然の地形をいかして江戸時代中期につくられた野外の棧敷席で、国の重要文化財に指定されています。

## 赤崎大祭の楽踊り

Akasakitaisai no gakuodori

長門市

Yamaguchi à la carte

やまぐちの祭り

③

# ふるさと紀行

やまぐち あ・ら・かると

山口県には、農業に関わりのあるさまざまな祭りがあります。それぞれの風土の中で育まれてきた祭りの起源やいわれをご紹介します。





地域の人たちと、こんなふれあいが生まれています!



利用者の  
高島 紘毅さん(東京都)

**「定年退職を人生の句読点と決め、平成11年4月から、ガルテンヴィラ大島を借りて、新しい生活を始めることにしました。大島のごときは、それまで全く知らなかったんですが、豊かな自然と島の人々の温かい心に包まれて、今ではここがすっかり気に入っています。」**  
大島がとても気に入っているので、できればこのまま大島に住まいを見つけて、住めたらいいなと思っています!



イモほりって  
たのしいよ!

**ガ**ルテンヴィラ大島では毎年秋に、地域の子どもたちなどを招いて、共同農園の収穫祭を行っています。収穫の後は、地域の女性の皆さんが作ってくださった豚汁などをいただきながら、みんなで楽しいひとときを過ごしています。



# 農村へ行こう!

都市と農漁村の交流施設 滞在型市民農園 **ガルテンヴィラ大島**

大島町にある滞在型市民農園「ガルテンヴィラ大島」。ゆつくりと滞在しながら野菜づくりを楽しみたいという都市住民のニーズに応え、ケビンふうの建物付き市民農園として平成11年4月、中四国で初めて誕生しました。ちよつとした別荘気分が農村暮らしが体験できるとあって大人気のガルテンヴィラ大島をご紹介します。

「ガルテンヴィラ大島」は、荒廃する農地の利用促進と、都市と農村の交流を目指して、屋代治水ダム近くの石積段々畑に作られた、滞在型市民農園です。  
滞在施設付き農園は、全部で12区画。現在、利用者の3分の2は、広島などの県外在住者が占めています。

大島といえば、青い海とミカンで知られる風光明媚な島。週末や休日などにゆつくりと滞在しながら、野菜づくりや釣り、海水浴も楽しめる。オープン最初の募集時には150件の問い合わせがあったのだそうです。

近年は「定年帰農」という言葉があるほど、定年などを機に野菜づくりを始めたいという人が増えていて、ガルテンヴィラ大島には、そうした利用者も少なくありません。  
また、できるだけ低農薬で野菜づくりに挑戦したいという人が多いのも、こうした市民農園の特徴のひとつ。管理人を務める地域の農家の方などに、野菜づくりのコツを教わることもあるそうで、自然な形で都市と農村との交流が行われています。

「ガルテンヴィラ大島」というネーミングは、小さな庭を意味するドイツ語の「クラインガルデン」に由来しています。

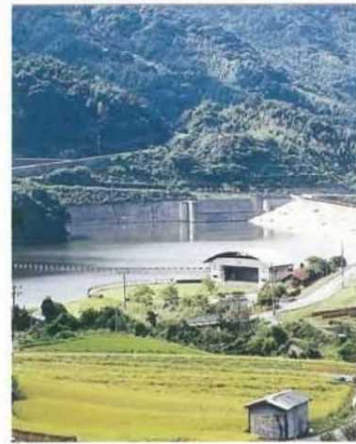
ガルテンヴィラ大島の  
利用者の皆さん(共同農園にて)



## ●近隣のおすすめスポット

### 屋代治水ダム

(大島町東屋代)



治水ダムとして平成3年3月に完成。総貯水量155万トン。湖面には白鳥や黒鳥などたくさんの水鳥たちが遊び、水仙や梅、つつじなど、四季折々の花の名所としても人気があります。

屋代治水ダムやガルテンヴィラ大島のすぐそばにある本格的な釣り堀施設。ニジマスなど釣り上げた魚は、その場で焼いて食べることができます。また隣接して、小動物とふれあえる「自光寺ピッコロランド」、乗馬が楽しめる「カントリー牧場」もあります。



### フィッシングビレッジやしろ郷

(大島町東屋代)

春・夏休み期間は毎週月曜日休館、その他の期間は土・日・祝のみ営業。10:00~17:00

## DATA



## ガルテンヴィラ大島

●利用料金  
滞在施設の年間使用料(36万円)+農園使用料(約1万円前後)+共同農園(1,200円)  
●お問い合わせ  
大島町役場産業課  
TEL 08207-4-1008 FAX 08207-4-1015

ガルテンヴィラ大島は年間契約で、最高5年まで更新可。新規募集があるかどうかは毎年1月に分かりますので、1月にお問い合わせください。申し込みは例年3月上旬まで。希望者多数の場合は抽選となります。



# のんた *photo* *column* ④



澄んだ空気、柔らかな土の温もり

朝靄にけむる

そこは、古より受け継がれてきた豊饒の大地

すべての生命の源

昨日から今日へ、今日から明日へと

変わることなく繰り返されてきた人と自然のいとなみ

滋味溢れる豊かな恵みは深く静かに語りかける

からだの奥深く、魂の在るところ

発行

食料・環境・ふるさとを考える

**山口県地球人会議 事務局**

〒753-0079 山口県山口市糸米2丁目13番35号 山口県土地改良事業団体連合会内

TEL083-933-0033 FAX083-933-0048

ホームページURL <http://www.yamadoren.or.jp>